

【原子カワポイント】広く利用されている放射線

(138) 放射線の健康影響—東京都民と福島県民で認識にズレ(その5)

前回の本コラムで予告しました通り、今回は、2018年2月10日に東京・渋谷区にある国連大学で開かれた「アップデートふくしま」の第一章パネルディスカッション「福島の今を考える～理論編～」の内容を詳しく分析してみましょう。

ゆりちゃん：第一章「福島の今を考える～理論編～」はどのように進められたのですか？

タクさん：詳しくは、「当日のディスカッションの動画 (YouTube) ⁱ」を見て下さい。会場には、一般参加募集に応募した方々と政府・福島県及び教育関係者・メディアらが275人集まりました。「アップデートふくしま」の実行委員4名（早野龍五氏、越智小枝氏、ウィリアム・マクマイケル氏、及び開沼博氏）が登壇しました。客席には「○」「×」の描かれたカードが配付されていました。参加者は、このカードを使ってパネリストの質問に答える、「一方通行ではなくて双方向性」を重視した議事進行が、とても印象的でした。議論は、開沼先生がファシリテーター（調整役）となり、序章と本章の二部に分けて進められました。具体的には、「序章」で、パネリスト一人一人から、「福島のイメージをアップデートすべき課題」を提案してもらい、「本章」で、「福島の現在のイメージを、国内外の人たちに正しく伝えるための視点や手法など」について、意見が交わされました。今回はまず、序章の内容を詳しく調べてみましょう。

ゆりちゃん：パネリストの方たちはどんな課題を挙げられたのですか？

タクさん：パネリストの方たちは、事前に、アップデートすべき課題を決めていたようですね。最初に「○」「×」の質問をし、客席との意思の疎通をはかり、各自がそれぞれ興味深い課題を挙げて、その理由をわかりやすく説明していました。最初は早野先生です。自己紹介で、「わたしと福島をつないだのは、ツイッター (Twitter) というツールでした。Twitterは、わたしにとって重要な『情報収集ツール』になりました。(それと同時に重要な『情報収集ツール』になることを知りました。その一つの事例が) 英国放送協会 “BBC” が2011年3月、(わたしの) ツイートを読んで“報道”に使っていたということです。その事実を知って驚きました。」と話されました。話は少し本題からずれますが、早野先生は、欧州合同原子核研究機構 (CERN) で、反物質ⁱⁱを探求する国際共同実験グループのリーダーでした。私の頭の中に、「海外で活躍されている方たちが、福島の姿を伝えることは、海外での福島に対する誤解を解くためのひとつのポイントかな？」という考えが浮かんできました。ゆりちゃんはどう思いますか？さて話を元に戻しますが、早野先生は客席に向かって、「(皆様は) 次世代以降に福島で、放射線による健康影響が出る可能性があると思いますか？」と質問されました。答えは「×」と言ってから、三菱総合研究所が2017年8月、都民を対象にして行ったアンケートの結果ⁱⁱⁱを示して「約50%が影響あり、と回答しています。」と紹介し、「この認識が今後も続けば、“差別”や“偏見”につながります。」と述べました。そして、『福島で次世代への影響がない』という事実の浸透がアップデートすべき最大の課題です。」と答えました。

ゆりちゃん：越智先生はどんな課題を挙げられたのですか？

ⁱ <https://www.youtube.com/watch?v=vSg9K7F1NzU>

ⁱⁱ われわれのまわりの世界を構成する陽子、中性子、電子から成る物質に対して、反陽子、反中性子、陽電子などの反粒子から成る物質を反物質という。

ⁱⁱⁱ https://www.mri.co.jp/opinion/column/trend/trend_20171114.html

タクさん：越智先生は2つ質問をしました。一つ目は、「あなた（東京都民など福島県外の人）が福島を知ること、福島の役に立つと思いますか？」、二つ目は「あなた（東京都民など福島県外の人）が福島を知ること、あなたの役に立つと思いますか？」でした。越智先生は、一つ目の質問について、「私の専門は膠原病内科なので、リウマチの患者さんを診察することがよくあります。しかし、私自身はリウマチの痛みを体験したことがないので、『ここが痛いのですね』と声をかけることしかできません。それでも、その言葉だけで安心して下さる方もいます。こういう体験を振り返り『福島を知ること、福島に住む誰かの気持ちを和らげることに繋がる』と、私は信じています。」と説明しました。そして、二つ目について、「誰にでも、大変なことは起こり得ます。福島は特殊だ、と思うのではなく、皆が福島を知ること、風評被害がおさまるだけではなく、次の被害を食い止められるでしょう。」と述べ、『自らのために、福島のことを知らねばいけない。』そのような感覚を持てるようにアップデートすることが、私にとって大事な課題です。」と答えました。

ゆりちゃん：それではマクマイケル先生はどんな課題を挙げられたのですか？

タクさん：最初に図1を見て下さい。マクマイケル先生は、二人のパネリストとはちょっと違って、3枚の写真を使い、それらが福島に関係したものかどうか質問しました。そして次のように解説しました。「震災から7年近くが経過しようとする今でも、英語（FUKUSHIMA）でインターネット検索をすると、見る人の恐怖心をあおるような画像がたくさん出てきます。その中には、図1に示す『東日本大震災の際に起きた千葉県の石油コンビナート火災の画像』が、福島のイメージとして使われるということがあります。また、図2に示す『東日本を襲った津波の高さを表す画像』が、福島からの汚染水流出の図としてネット上で拡散されています。さらに、図3に示す『栃木県的那須塩原市で撮影された「マーガレット」の奇形（帯化「たいか」）の画像』を見た人の多くが『福島で栽培されていた花』と勘違いしていました。」そして、「このように、福島については今も、『偏見や先入観の混じった意見（バイアス）』が残っています。」と述べ、「わたしにとっての一番の課題は『世界からみた福島のイメージのアップデート』です。」と答えていました。次回は第一章「本章」について調べてみましょう。

（原産協会・人材育成部）



図1. 震災時(2011年3月11日)千葉県市原市の石油コンビナートで起こった火災
 「<http://www.govtech.com/question-of-the-day/Question-of-the-Day-for-110613.html>」

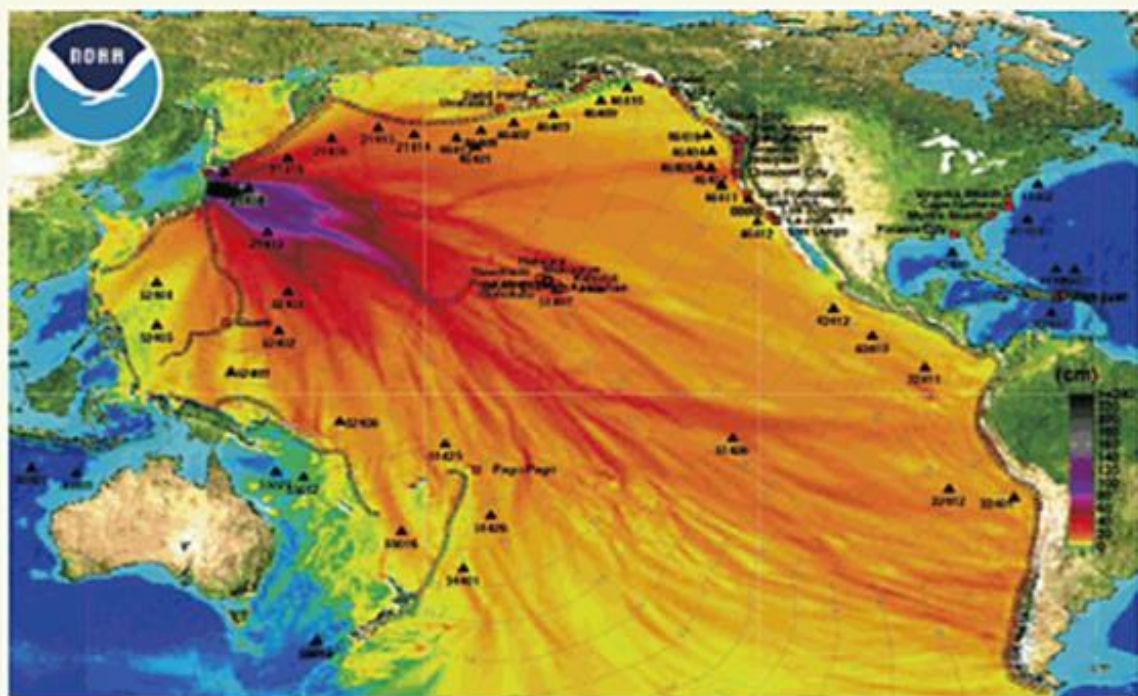


図2. 東日本大震災における津波の太平洋における伝播の状況
 (注) 太平洋に設置された海洋津波計のデータを活用した解析モデルによる計算結果
 (米国海洋大気圏局 (NOAA))

「<http://www.milt.go.jp/hakusyo/milt/h22/hakusyo/h23/html/k1111000.html>」



図3. 2011年5月に栃木県那須塩原市で撮影され、その後ツイッターに投稿された
マーガレットの「帯化」現象を示唆する写真
「https://twitter.com/san_kaido/status/603513371934130176」